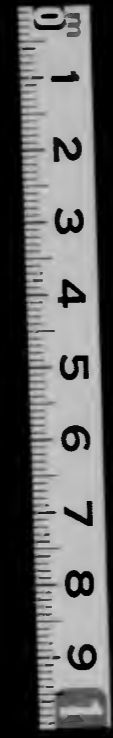


人海書之番

四

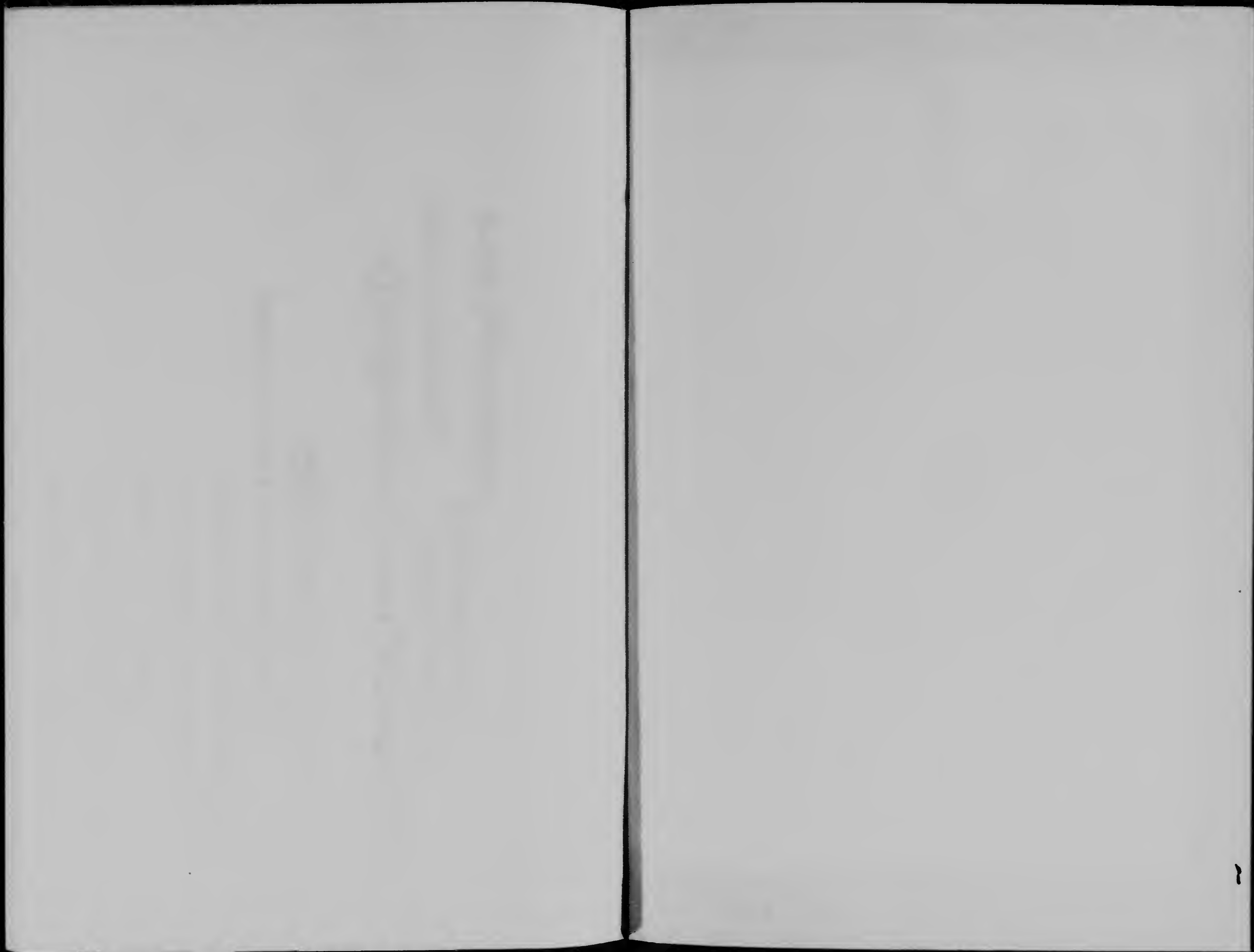
浪

庫文閣内			
五二函	三九二冊	三二五九號	和書類
一之架			



内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (287)
函號	152 121

其六



享保三戌年三月十日

宝永九年三月十日

中次之役由信忠承
小菅信中川信守
大守青松年志摩守但 信忠 中次之役由信忠承

享保十七子年二月十日

信承京太後の名に承る

享保十九年二月十日

信忠大守青松年志摩守但 信忠 中次之役由信忠承

信忠大守青松年志摩守但 信忠 中次之役由信忠承

信忠大守青松年志摩守但 信忠 中次之役由信忠承

信忠大守青松年志摩守但 信忠 中次之役由信忠承

寛保二戌年秋松坂の法皇(孝和)
延享元年七月十日御崩
日辛丑月十六日布衣忌と免さる
延享三亥年二月十日西行(道行)御崩
日辛七月十三日死中二葉

寛保三戌年三月十六日

宝永六子年二月廿日御崩

延享元年(宝永六子)松坂(孝和)御崩
中川(信勝)御崩

大御書松平志摩守御 孝和 延享元年(宝永六子)御崩

茂伯(系大坂)の名出(孝和)御崩

宝曆六子年七月廿日老稚賜(孝和)御崩
宝曆七子年三月廿日致仕
天明五子年三月廿八日死

享保三年三月三日

享保三年七月三日

大津藩松平忠房守組 三原 河村重信守組

河村重信守組 信勝守組

中津藩中川信勝守組

任留系大坂の参上儀より奉り申上之度

享保三年三月三日 大津藩守組

三原馬場

同奉り申上之度 諸村藩後有之儀

三原

享保三年三月三日 大津藩守組

神事流儀馬場の村より

沙指翁と云ふ

享保七年十月八日 駿村法隆寺より

明の五目管生に言て其全集と云ふ

享保九年三月五日 京師沙指翁

言て明の五目管生に言て其全集と云ふ

元文元年二月三日 沙指翁

享保三年三月十日

享保七年七月十八日 齊

中根金吾昌長 奏云

中根松平志摩守 廻

中根新七郎 西雅

改 信 彦

西雅 京師板の 齋 彦 子 云

享保七年二月五日 西丸新 齋 松 浦 洋 一 而 廻

享保三年三月六日

享保三年七月五日

右田長帝

右田信之

大津藩松平忠房御前
右田長帝
右田信之
右田信之
右田信之

加藤素子

享保九年十月九日新治藩松浦江之助

享保三戌年三月十二日

西德三亥年四月三日

又行番松平志摩守道三右衛門 山川任藏貞胤

改原市

貞胤 京大坂の宿屋より来た事
云々

享保土午年三月五日大津持の所
出行情子と誓光

享保十九亥年四月三日死三十七歳

享保三年三月六日

元禄七年三月三日

大御前松平忠房殿 二儀 任東茂南祐春

改九条次

任東茂南祐春
中書省左少保法橋守

祐春弟大板の御意の事〜夜〜

享保三年二月廿日 中石川蓮元守

弟の居邸 御意の事〜

元禄四年三月二日 大板の御意の事〜

御意の事〜

元禄四年七月九日 大板の御意の事〜

祐春の御意の事〜 出来迄清書

お〜る

享保二戊年三月十六日

西徳の嘉年二月五日

平野の若原の勝勢春子

中津の佐村の和泉守道

命書松平志摩守道 二夜 平野武平の勝道

改 平野

勝勢系之坂の名を以て嘉年三月

享保二壬午年三月五日大津將の時

先河内物とて勢を

享保七壬午八月廿一日

享保六壬午年二月廿日二重城の嘉年

嘉年八月廿日白根村の勝勢

以て存七の息物也

元文三年秋招撫の法儀あり
 元文四年夏二条松の法儀あり
 寛保二年秋招撫の法儀あり
 延享二年夏京都の法儀あり
 寛政元年秋招撫の法儀あり
 宝暦元年夏京都の法儀あり
 宝暦四年夏京都の法儀あり
 天明四年夏京都の法儀あり
 天明五年三月十三日死す一宗

寛保四年十月八日

徳和元年七月五日死す

徳和元年七月五日死す

徳和元年七月五日死す

大津藩松平忠房守但言主 徳和元年七月五日死す

改 三石

寛保元年七月九日死す

寛保元年七月九日死す

享保四亥年十月十八日

宝永三戌年九月十日

似言古書亂暗卷

中書信細石川を庫多死

奔番松平志摩守明組三言石飯高源在馬園宣

内字儀

享保六丑年夏三幕候の御書信

とあり

享保八卯年十一月十六日死四十一歳

享保九年三月廿三日

享保九年三月廿三日

高木忠兵衛(定)忠房

高木信但(定)忠房(死)

高木信但(定)忠房(死)

享保十一年三月廿日解入建部左衛門尉

享保十二年三月廿日死(年三)

享保九年三月廿一日

享保八年三月廿三日

森七郎定政惣所

常務信但百馬内膳

大御番村土佐守但 森 林 漢 定 利

定利 弟 大 塚 の 寄 書 一 封

享保九年四月廿三日 死 三十一歳

享保九年三月五日

享保九年三月九日

石野

大野村

享保九年三月五日

享保九年三月七日

歩行

享保九年三月五日

享保九年三月廿日

元禄七年三月廿三日

宮重十九馬信治為成

山崎信但首末右馬守と成

大津藩村左衛門

二重儀宮重左衛門

後十九馬

國忠系大坂の宿屋より来り奉る

享保九年三月廿日大津藩の村

奉行惣子と勢免

宝曆七年三月廿日

國忠の體と云ふ下之書七右松

妙光寺に送り

享保九年三月廿日

享保九年十月廿日

在在の如き利懸

小倉信田河川際迄

大津藩村七作守廻 三巻依 在在の如き利懸

利懸事方取の懸書の日ある事

元文六年七月十日

寛保三年七月十日

延享二年七月十日

寛延元年七月十日

元文六年七月十日

寛延元年七月十日

宝曆元年未年夏三系核推遷あり
宝曆四年秋石城の影之傳に
ありしに程ありしにありし
宝曆四年十月廿日於石城死

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

享保九年三月廿二日

宝永二年三月廿二日
享保九年三月廿二日
小野元忠傳り或難忠伝
小野元忠傳り或難忠伝

享保九年三月廿二日
小野元忠傳り或難忠伝

或格京大坂の影之傳ありしに
享保九年三月廿二日
小野元忠傳り或難忠伝

元文二年三月廿二日
西丸御所

享保九年三月廿日

宝永三年三月廿九日

本村様存門清賢奉書

小菅信祖曲下野守と宛

大津青柳村在在守祖 三書 本村傳而清茂

清茂兄弟坂の宿也(云々)

享保九年三月廿日 西津腰物方

享保九年三月五日

宝永九年三月三日

寺書林村古伝

三依勝公市之丞利永

勝公市之丞利永

寺書林村古伝

利永市之丞の古伝

宝永七年二月廿七日

享保九年三月廿日

宝永六年三月廿日

大津藩村在佐之組 二儀 大島中右衛門忠方

大島中右衛門忠通 忠方

中津藩村在佐之組 二儀 大島中右衛門忠方

忠方 大島中右衛門忠通 忠方

享保七年十月廿日 大津藩村在佐之組

口年 月 日 津藩村在佐之組

口年 月 日

元文元年九月廿日 大津藩村在佐之組

寛保元年九月廿日 大津藩村在佐之組

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

三月廿百石病名出候

享保九年三月廿日

享保七年九月二日御月

松平孫次郎滿政奉書

山崎信但右馬内膳之宛

大御前村去佐守組 二言儀 松平孫次郎改明

改明事左候の旨申上り候

享保九年三月廿日大御前村の付

奉行惣多くと勢免

享保十二年六月廿九日

享保九年三月廿九日

享保九年九月十九日密書

大津浦村古伝寺地 山口より西光豊

山口浦より光豊熱風

中津浦伝丹差た馬と云

光豊寺古伝の密書の中

享保十年三月廿日中金津村の時

越後馬と努免

享保十年四月廿九日之傳古伝村

中津浦の村より引く之伝中より

時伝と賜

享保十年十月十日大伝古伝村

河津人の村に列して皆申あはせ
時辰と賜りし

享保十九寅年四月十二日河津場始乃
村に列して時辰と賜を明の十三日
管中に百さまで美令と賜

同年五月二日大崎市村河津の村に
列して皆申あはせ時辰と賜

享保二十卯年四月五日河津場始乃
村に列して恩賜あり明乃十三日
管中に百さまで美令と賜

同年九月廿日河津とて古事紀志用
大崎市村河津有て皆申あはせ明の廿日

管中に百さまで時辰と賜

元文元年辰年四月五日河津場始乃村
河津の村に列して皆申あはせ時辰と
賜り明の十三日管中に百さまで
賜

元文二年五月廿日河津場始の村に
列して恩賜あり明の十六日管中に
百さまで美令と賜

元文三年五月廿日河津場始の村に
列して時辰と賜り明の十六日管中に
百さまで美令と賜

元文四年五月廿日河津場始の

享保九年十月九日

享保九年十月廿五日

付手物盛幸参取

本多信但仔丹元在島上死

大御書控付在作之但 二言候付之次而盛尹

盛尹系大坂の御奉行也

享保九年七月廿五日移入者本経及物之死

寛保三年十月廿五日死

享保九年十月九日

享保九年三月廿六日

大津書林村在作也 仁保 仁智保茂宗誠道

仁智保中三市後馬春子

小菅信但松野八郎宗信之死

徳之とある所の事は不明なり

元文二己年十月廿六日 稗入之者忠田而也

寛延三年三月三日 致仕

宝曆二甲年三月廿三日 死 七十一歳

享保十八年三月廿一日

享保十八年三月廿一日

門宗也三條勝直也

大寺番松平信房守廻 之署名 門宗也三條勝直

勝直系大坂の寄書也

享保十八年三月十日新洲番倉橋内色也

享保六年八月廿五日

享保八年八月二日

中比長公卿光孝奉養子

少重法但中出侯藏子死

大布番松平侯惣持但 二言儀中比長公卿勝命

勝命系左殿の宿直より

享保二十二年八月十三日

小町御若君近習番

口日沙没料二言儀と賜

元文元年七月八日禱入世雨七代鳥丸

寛延三年二月廿日死

享保十六年四月廿六日

享保十七年二月廿五日

大御所松平任職守道 加藤信正

改新在馬
守道

正方三郎左衛門尉の宿願より事三夜

元文二年四月九日移入杉本治部丞宛

延享三年二月廿三日大御所御直馬

伯后守道入

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

享保十六年四月廿六日

享保十六年三月廿九日

年奥三左衛門昌徳参上

山崎屋徳之助酒敷馬主

大番番松平伊勢守御 三言奉右 年奥志留市昌芳

改 海兵衛

三左衛門

昌芳 志留坂の宿屋に参上

三言

元文五申年九月十日元

寛保三年七月五日

元禄十三年七月五日
宝永十三年七月五日
叙父之法而則道

加茂若丸而別取

三重

加茂若丸而別取

別取系方坂の守り

元文四年三月

寛保元年七月

寛延三年八月

享保十六年八月廿一日

享保十六年八月廿一日

志山三三又良意奉書

七番信組見初居り上紀

大御前松平信守組 音信達山中平良勝

改権三番

良勝系三郎の寄書より事あり

宝暦十三未年夏二系城の寄書より

一に病ひ少く

宝暦十三未年八月廿一日 在死守三系

良勝の體と今出河の御守より

送る

享保十三年八月廿日

享保十三年七月廿日

横山左兵衛一利

小菅信通青木経辰物主

内務松平信守通二重保 横山左兵衛一利

一成 系左衛門の名をいふ事

元文三年八月廿日 入行中周防守と云

寛延元年三月三日 致仕一成と云

その後息男が在るは一友と云

奉公と云一はと云

明和元年四月廿日 致仕死す

一成 繫と云 坂中寺町 大雲寺 小送

享保十八年正月廿日

享保十八年正月廿日

窪田常三郎勝政表

山崎信組青木隆成助

内書松平信輝等組 二重儀 窪田救馬勝安

勝安直末殿の御書簡

元文丙申年十一月十日

為奉行と

明和七年閏二月十九日死

高保八郎年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日 小野高保 孫高保 依送歸 二年八月三日

改 右 高保

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

高保八郎年八月三日 祖父相之丞 孫高保 依送歸 二年八月三日

享保十六年秋招懐の徳清の事
享保十九年十一月廿九日死にす

享保十六年六月廿日

享保十六年九月廿日

大正青松平信守領云々依大正山而義明

同年秋招懐の徳清の事

享保十七年三月九日

少帝殿近書

享保十九年十一月廿日

少帝殿小姓の事

元文二年十一月廿日入松下赤尾氏宛
寛延二年六月廿日赤尾氏宛長門守

御入

享保十六年三月廿日

享保十六年三月廿日

淡和之右衛門定成

大所番松平任惣守御 二 淡和之右衛門定成

改三ノ右衛門

成代之右大坂の右衛門守之丞

明和六年三月廿日老祥賜金二枚入神尾若狭守

明和六年三月廿日致仕入

天明元年三月廿七日死

享保十六年六月廿五日

享保十六年九月廿日

高井万太郎の恒通養子

高井信太郎の恒通養子

大津清和半信等守組 二言儀 赤井左内色高

改二言儀

色高弟太郎の恒通養子

宝曆元年十一月廿日 於二言儀 赤井左内色高

色高の養子と云ふ事 出木通

光緒寺小送

享保十六年九月廿日

大御所御出書奉廻

三原 戸田長帝 御方
後 忠 奉 書

三原 金奉行 戸田忠 奉 書 西 非 養 子

此方 三原 戸田 家の 御 書 奉 廻 奉 書 一 通 一 通

元 文 二 年 八 月 廿 日 定 次 公 子 上 下 御 書 奉 廻

乃 御 書 奉 廻 奉 書 一 通 一 通

元 文 二 年 八 月 廿 日 御 書 奉 廻

此 方 三 原 戸田 家の 御 書 奉 廻 奉 書 一 通 一 通
元 文 二 年 八 月 廿 日 定 次 公 子 上 下 御 書 奉 廻

元 文 二 年 八 月 廿 日 定 次 公 子 上 下 御 書 奉 廻

可服ニシテ... 年毎ニ不替
 延享三宮年三月廿九日御幸貞朝月
 前以御成事色ハキ事トシテ...
 寛延元在年三月廿日朝拜後未
 聘ノ法用ニ替... 可服ニシテ揚々
 寛延二己年四月廿日御幸貞朝月前
 以御成事色ハキ事トシテ...
 宝曆元在年九月廿九日元

元文元在年四月廿日

寛保元在年九月廿日

大御前秋元集人伝

保内子... 改書在集
 寛保元在年九月廿日

元文四在年三月廿日... 賜
 元文五在年三月廿日... 賜

元文六在年三月廿日... 賜
 元文七在年三月廿日... 賜
 元文八在年三月廿日... 賜
 元文九在年三月廿日... 賜

奥行及海黄及所^一と賜^一

口奉十月廿一日^一業師院有^一
賜物^二と賜^一

寛保三年四月廿一日^一業師院
有^一賜物^二と賜^一

口奉十月廿一日^一業師院有^一
賜物^二と賜^一

延享元年三月九日^一業師院
有^一賜物^二と賜^一

延享元年三月九日^一業師院
有^一賜物^二と賜^一

延享元年三月廿九日^一新出書院^一組

元文元年四月廿日

享保元年七月九日^一晉

久保^一及^一勝^一怒^一从

山^一菅^一信^一組^一竹^一中^一周^一守^一之^一死

久保^一及^一勝^一怒^一从^一之^一保^一頼^一母^一勝^一倚

勝倚^一及^一海^一黄^一及^一所^一と賜^一

延享二年三月九日^一死^一字^一業

元文元年四月某日

享保十三年三月某日

安永七年八月某日

天明三年八月某日

大正十三年九月某日

同奉秋田縣の歴史

元文二年四月廿日死二十八歳

元文元年四月五日

享保由元年十月九日

大御前御奉行人

池田源重

改奉

貞則より... 奉行... 明和七年... 天明八年...

新のゆくはなほ春の若きとき三年以乃
首のゆくはなほ春の若きとき三年以乃

寛政元酉年四月廿九日

元文元年四月廿九日

享保十九年四月廿九日

福富求馬を贈る

少若佐但去金三物文宛

大御書秋元集人組吉幸公福富或部出騎

旧年秋松城の御書信の末に御記に

福富のゆくはなほ春の若きとき三年以乃

元文元年四月廿九日

元文元年春四月某日

享保二十九年二月二日

珍本高麗勅政信卷之二

書信組之留時殺馬之死

大御書秋元集人心組 宮幸若 珍本御三帝政次

改陳之勅

政次書之板の書卷之末

延享元年春三月二日新御書仙石次高組

元文元辰年四月某日

享保九年七月六日家督

白米五石五斗

中書信但朽木修理士死

大寺青社元集人伝

章名

白米内倉御産全

改九石五斗

産全弟大坂の宿舎より来る事

産全

寛延二年四月六日於大坂城

死年七歳

産全の骸と大坂少橋寺所乃

傳長寺より送る

元文元年四月某日

享保七年三月二日曾

福王勅助信義奉書

山崎信組打本修理支宛

大御番秋元年人廻 二日後 福王勅助信義

信義奉書宛の宿直に奉書
九反

宝曆四年甲申月某日新書之由書在御

元文元年六月廿五日

京都五條二年六月廿五日

横山中七帝一義二男忠成

山崎信組杉本修理次宛

京都書院元集人西垣 二儀 横山平十帝一敬

口奉秋信殿の御書簡の事

元文二年六月廿五日 呼 呼 呼 呼

元文元年四月某日

享保市南奉国九月十六日

文友若右幸雄也

山崎若右能辨市十郎也

大御書秋元集人廻 吾名 文友秋元幸金

曰年秋松城の徳傳の事

元文三年三月某日 西京市性廻之方松澤等廻

元文元年四月七日

享保十七年十一月二日

皇同治元年信改養子

中書信祖能勢而十帝之死

大内清秋元年人相 二儀 皇同治元年信改

改子信改

信改二弟大改の宿直にあり

寛保三年十一月廿日祥入大星忠常而之死

安永二年正月廿日致仕

寛政三年八月十六日死七十六歳

元文元年七月四日

享保十二年七月二日

深尾右衛門八元久春子

出雲守組朽木重右衛門吉次

大御前秋元集人三組 出雲守 深尾文三郎元敬

内百俵

同春秋城の徳信日記

元文三年九月四日

元文元年四月某日

享保九年三月三日

糟屋屋右衛門義外春世子

出書信但朽木之家

大御書秋元集人廻 言依 糟屋屋右衛門義勝

元文四年五月十日元二子家

元文元年四月某日

享保十一年三月十日

附右十五更貞徳寺

書信廻丹祖寺信与先

大寺書秋元集人函廻

言書後瀬右孫而自利

後瀬右而

元文元年申年二月七日拂方寺納

Faint, illegible handwritten text on the reverse side of the page.

元文元年四月廿日

享保二十三年三月十日

大御書御免集人

三原任後三左衛門

伊後三左衛門忠昌

中務省御免集人

旧年秋松城の御免集人

元文元年夏二原城の御免集人

史より御免集人

宝曆二年六月二日

大御書御免集人

史より御免集人

元文元年九月二日

史より御免集人

二条俊成公（一） 二条道隆公（一）
御恩賜也

宝曆十三年二月廿日死

元文元年四月某日

寛保九年六月廿日

水野清平次近貞熱心

中務左近大膳忠常死

大御前秋元集人廻 二條水野三斗近久

近久三弟大坂の宿屋（一）

寛保元年九月十九日拜入行申周防守死

延享四年九月廿日為青島津

致中守廻入

元文三年三月廿三日

寛保六年三月廿三日

春日左衛門顯道惣代

小室信但依野右衛門左衛門

大御書抄元集人山田山守春日左衛門行清

元文四年三月九日關前河原の村に
列して四月十日言中にて言て河原にて
寛保元年三月十日河原の村に
列して河原にて言中にて言中にて
言中にて言中にて言中にて
寛保二年三月十九日大御書抄の村に
候して大御書抄中にて言中にて

宝曆四年十一月廿六日大津藩組込

その後行清、京大坂の邸番にあり、
事度、行清、年終北福と婦とて、
好事の元、庶民にその功を、
治事、行清の功、少くなく、

同年七月朔日、松城の宿、
沙眼、白根、村、町、
い、世、恩、賜、あり、

宝曆七年、
宝曆十年、
宝曆十三年、
明和三年、
明和六年、

明和七年、

元文二年三月廿三日

享保七年八月廿日家督

逸見源吉而義隆忠爪

小菅信恒佐野吉重子死

大御前秋元集人公祖 二名 逸見源吉而義隆

改小菅

義隆弟大板の信成と云ふ事不存

享保元年三月廿日老釋賜金二枚入長岡陣中と云死

同年四月廿日死七十五歳

元文三年十一月廿三日

元文三年七月廿三日

汝友之勳貞孝奉養

忠義後世所共仰也

大御前秋元集人正組 三子孫 汝友忠次而正方

西芳垣城の徳信の弟の年を以て

延享元三年九月十日拂方正納戸

元文三年三月廿三日

元文三年八月二日

小林角十郎西親守男也成

中書侍郎丹波守也成

大布書秋元集人西親守男也成

寶曆七年三月八日

大布書秋元集人西親守男也成

同年月日

大布書秋元集人西親守男也成

大布書秋元集人西親守男也成

大布書秋元集人西親守男也成

大布書秋元集人西親守男也成

明和三年秋松城の落城あり
明和六年夏二重城の落城あり
安永元年秋松城の落城あり
安永七年夏二重城の落城あり
天明元年夏二重城の落城あり
天明四年二月十六日老群英令と
賜し菅沼三膳公之死あり
寛政元年八月 日三木海守
之死あり

寛政二年八月十六日死七十六歳

元文三年十一月廿三日

元文三年七月廿六日死

中村三郎左衛門英勝越后

少将信直丹波守に死

大内青秋元年人廻り中村三郎左衛門勝諸

段三郎左衛門

勝諸三郎左衛門の落城あり

宝暦八年十月二日大坂守り奉り

日永三月廿日法眼美令一肘股

二と賜

明和三年九月廿日大坂死

勝諸三郎左衛門の西心寺に送り

元文三年三月廿二日

元文三年三月廿二日

春田里の帝久瀧書子

書多法但行中周防もも死

大守書林元集人正但 若名春田流七帝之伴

白言字後

改七九也
長三書

之伴系大板の紙を清くし事なす

宝曆三年三月廿二日新書番八木十三帝但

元文三年辛十月廿三日

元文三年閏十月二日

大御前秋元集人組 岩部 德三 勘定将

改左番

岩部左番 定後 春子

岩部左番 細古 春子 初子 死

定将 岩部 德三 勘定将

二十九夜

天明元年三月八日 老辞 賜 黄金 杖入

官候 久之 而 死

天明二年 十月 十日 死 七十三 歳

元文三年十一月廿二日

享保二年十一月廿二日

下山三郎西形春彦

山崎信但右左衛門

大津藩秋元集人廻言儀下山百助保教

段是

保教系大坂の宿直り事

度々

宝曆三年二月廿九日新津藩松平飛騨守但

元文三年三月廿三日

元文三年三月廿三日

信田又十郎信貞

山形信田又十郎

大御前信貞

政又十郎

信久三郎城の

坂城の

信久三郎

明和三年三月十日死

元文三年三月廿三日

元文三年三月三日奉書

松田氏に奉書

山崎氏に奉書

元文三年三月廿三日 松田氏に奉書

改書

元文三年三月廿三日 松田氏に奉書

寛保二年三月廿三日 松田氏に奉書

貞白居士に奉書

今更なる事

今更なる事

寛文元年三月廿三日 松田氏に奉書

寛文元年三月廿三日 松田氏に奉書

寛延三年辛酉九月御代官

尾形部之境山論換ふ所月と金をきき
月 日少暇なき故に所賦にとけり
と事と勢ありて云ふゆへに注湯寺

同年申年三月上野下野左降下総
と此中なき作と事あり

宝曆二年七月依く新中節一々

沖積下り徳園吉房郡西海神村

新田権左衛門と勢ありて云ふゆへ

同年九月五日

月光院若冲進福のたを所施り其の
所用と大下りてき

宝曆三年二月依く中國渡海御代官
一石増地九石御代官と候

宝曆四年三月 日親月余事首

所所と一々其人をたし流るる

年毎にわたり候

宝曆五年三月御代官と候

宝曆六年三月御代官の事あり

これに随列並枝の泊り所補所用と

つとせ

宝曆七年七月常陸下総と揚州

増地一石九石六石と候

明和二年上野國と揚州

明和四年三月上旬中情の陣を
引退用と云ふ事ありし三月五日迄
三月五日

明和四年三月和州津播磨國下場所
智入松山移り

安永四年三月揚州西陽郡細村橋列
攝東郡上河津村新庄赤村より
新田八百石末豊章より三分にて用度
ありしを十石五分六厘七年
九月と豊章生誕の日なり
安永六年三月揚州上総下総の月揚州
指地一万石元七方石のより死に候。

安永九年三月房列浦上南京舟
漂着ありし三月揚州よりありし
仰石綿と稱する國人の長崎に
送りし切少ありし三月九日
當中にありしありし海首と云て
美人と云時服にと候。

天明二年三月七月九日祥入元川
山崎守より死
同年三月八日死す八家

元文三年三月廿五日

元文三年七月廿日

元文三年七月廿日
今福刑部左衛門膳前忠成
右衛門督領上意忠臣前忠成
元文三年七月廿日
今福刑部左衛門膳前忠成

寛保二年三月廿八日
今福刑部左衛門膳前忠成

村に列し
今福刑部左衛門膳前忠成

口年秋
今福刑部左衛門膳前忠成

名刺
今福刑部左衛門膳前忠成

元文三年七月廿日
今福刑部左衛門膳前忠成

元文三年七月廿日
今福刑部左衛門膳前忠成

元文三年七月廿日
今福刑部左衛門膳前忠成

延享二五年二月三日
延享二五年二月三日
延享二五年二月三日

延享二五年二月三日
延享二五年二月三日
延享二五年二月三日

延享二五年二月三日
延享二五年二月三日
延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

延享二五年二月三日

元文三年三月廿一日

寛保十六年三月廿一日

大石甫秋元集人心組

言集後大石清之助道雲

大石清之助道雲

大石清之助道雲

元文四年三月廿一日

寛保元年四月廿一日

寛保元年三月廿一日

寛保元年二月廿六日

元文三年七月廿四日

大御所秋元集人宛

一石守 松平太右衛門八光寛

松平太右衛門勝信熱心

少将信直北条新吾五郎

老寛弟太右衛門の書並に弟の事七月夜

寛保二年秋候城の書並に弟の

明の事正月りの御所書並に

三右衛門と努む

宝曆三年八月廿二日書馬出齋

田舎の御館に石出さきさき御見

馬と云は家ありハ二男と御見と云ふ事あり

田舎の沖籠りて作らさきハ
松平と右家との百はつきり
沖籠りてよりして能見と致免
松平と以氏とせん事
りきしうらりの作有りに
氏庸一この沖籠りてせん事
なりけりて右家と帝と清光寛
作らしてのち作らハ随りへ
りきしやせしによりして光寛
そ作らと田舎の沖籠りて
光寛沖籠りてと治田たるとの
右家とせん事私に言ふ事

あつてはこれ

將軍家より沖籠りてせんものちハ
作ら随ひますりてやきりに
よりして致免松平よりせん事と
りきせしめて沖籠りて
松平氏と氏庸と免す沖籠りての
重き事
うり橋殿の名分のさし事と
言ふかひり

明和二年二月晦日入穀粟其子而更死

明和三年七月二日死年三

寛保元酉年二月廿二日

寛保七年三月廿二日

遠山市之別義申子
中書信祖小糸新為之宛
人而祖 三依遠山十次而別義

別義之卷文市之別義ハ一也

源之帝政沅^后書^書之次田にて忠次而

別信^{別義}實^實父也^也之卷文とありそのら

別義^{別義}之^之色ハ別義則義之似て嗣子

と一別義^{別義}之^之次田市多存處の別義

嗣子也ハ一橋の御館^{御館}に云々現承

十五名之と得^得之^之是等人の嗣子とあり

天正沅とあり

りてつくる

別所系大坂の警備はまゝ十年十月
宝暦七年十月十日大坂番組代

宝暦七年二月三日二条城番に

あき六沙服白根村時辰と備り

そより其書の度毎は恩賜行り

宝暦十年秋松城法番より

宝暦十三年夏二条城番より

明和二年秋松城の警備より

明和六年夏二条城の番より

明和八年三月九日死す

寛保元年二月五日

享保十六年十月四日

大坂番組元年人組 三條 大之丞 吉比忠

改九条番

大坂番組元年人組

大坂番組元年人組

比忠系大坂の警備はまゝ十年十月

宝暦七年夏二条城の番より

宝暦七年十月十日

明和二年秋松城の警備より

明和六年夏二条城の番より

大坂番組元年人組

明和八年三月廿六日

安永元年七月朔日
仙洞の事
奉りし
寛政二年三月廿九日

安永元年七月朔日

安永七年秋

天明元年

天明四年

天明七年

天明八年

天明九年

天明八年三月廿六日
仙洞の事
奉りし
寛政二年三月廿九日

天明八年三月

仙洞の事

奉りし

寛政二年三月廿九日

仙洞の事

奉りし

寛政二年三月廿九日

仙洞の事

寛政二年三月廿九日

賜了全田進言を以て入
寛政三年七月五日致仕
寛政三年七月五日死す七家

寛保元酉年二月五日

元文三年三月十日

大行南無天集人云但 山角五郎之富

改元在後

山角五郎致故書多

中書後任行中周防守死

之富五郎の富は八家と事十九夜

宝曆九年三月十日十二をり同

富五郎の勢めあきんそく 兼金板と

賜る

寛政九年三月十日老辞賜兼金板入傳相換守死

享和元年 月 日死す七家

寛保元年二月廿日

元文四年二月廿日

小林源三郎 正長春子

菅原信長 長谷川之帝子

大内青秋 元集一人

菅原 小林 米馬 西房

改 源三郎

西房 京大坂の 名を 公家 多事
後

明和八年七月廿日 死 甲子九歳

寛保元年八月廿五日

文政元年八月廿五日

大御書秋元集人云

二儀

松山藩義福春子

後嘉永

寛保二年八月廿五日

刑部卿宗尹主近習書

同日沙段料二儀と賜る

同月十日旨同、御箱の中仕と邪也

延享二年八月廿五日同、御箱の中仕書

御書とあり

同月九月廿五日同、御箱の中仕あり

宝暦四年九月廿三日同（一）所籍の
佐氏とあり

宝暦七年九月廿日同（一）所籍の
物取とあり

明和六年二月廿日同（一）所籍の
用人とあり

同年十二月十八日布衣と免とあり

天明六年正月十日晦日老穉寄合列寸

天明八年七月廿六日致仕その科

二言儀と賜

寛政三年七月有給安省とあり

寛政七年六月廿日死古七奉

寛保元年二月廿日

元文五年二月廿日同

由清去任門下信忠所

中書信忠長若川之帝死

大御所初元集人心組 二言儀 武治信忠之利

改去任門

後利弟去任の証書とあり

その後二言儀の帝とあり

宝暦七年二月廿日同

一して

宝暦七年三月廿日二言儀死中書奉

後利の證とあり

西入所妙庵寺とあり

寛保元酉年二月廿日

享保己未年二月廿日

武友子左衛門安政如原

中書信組長高河久帝之死

大御番社元隼人云組 三信 武友子左衛門安政如原

後忠高河
十高信

寛保二酉年二月廿日

刑部御宗尹主迫習書

日付沙役科三信候之端

寛延二酉年二月廿日 穉入奥田八兵衛之死

宝曆二酉年二月廿日 大御番加納

之和守組子入

寛保元年二月廿日

元文四年十月廿日

山形新田守奉義熱心

山形新田守奉義熱心

大津藩初元隼人組三番隊山下又右衛門義連

改佐佐木

義連 弟又右衛門の御事

宝曆七年十月十八日

義連の御事

元文四年十月廿日

寛保元酉年二月廿一日

元文五年辛未二月廿一日

三宅元八帝后崩

中書右丞相阿部公成死

大御所秋元集人死 二宅元八又十帝崩死

改元元八帝

寛保元酉年二月廿一日

右衛門督宗武卿近習青

延享元子年二月廿七日祥入大忌

忠臣帝子死

宝曆八寅年四月廿六日死

寛保二年七月三日

大御所奉書之奉取組

二箇俵六匁市三兩時比
後二箇字右

新造番仙名次奉書組奉書時照奉書

時比市三匁の奉書より奉書

寛延三年七月三日時比

二箇の二箇俵六匁一奉書

明和三年七月三日

右儀の御書式御用人

同年七月十九日布衣奉書と奉書

明和三年九月三日御書奉書合ふ列す

寛保二年三月三日

寛保二年三月三日

大御所御書
二御儀武及徳宗師御

後言

西丸御書
徳宗師御書
二御儀武及徳宗師御

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

延喜二年三月三日

所為盡の差副と勢む

宝曆元未年夏二条城の宮室にあり

所被換を行くと勢む

宝曆四未年秋恒松の徳信にあり

所為を行くと勢む

宝曆七丑年夏二条城の宮室にあり

宝曆九卯年夏代人として二条城に

あり

同辛丑月廿五日常武十とをう回上乃

勢めありとて黄令と鴨の名

今日至都の勢む

宝曆十辰年秋恒松の徳信にあり

宝曆十三未年夏二条城の徳信にあり

所被換を行くと勢む

明和三年秋恒松の徳信にあり

明和六年夏二条城の宮室にあり

明和八年辛二月廿四日西元切所川黄令

天明元丑年二月廿二日老釋賜養金板

入詔本根肥後守支死

天明七年七月廿日死七十六歳

寛保二戊辛十二月二日

大津藩本多之庫氏但 二儀 仙波子之柳種澄

後二言二儀 後二言二儀

拂方御酒之仙波江常而種昌也所

種澄系之坂の家臣に弟之事あり

宝曆十年辛八月廿三日海月二言二儀

是より二言儀八返一節

天明二年辛二月廿八日老釋賜養全杖入永井監物去死

天明七年辛七月廿八日元八十二歳

寛保二年辛三月三日

命書前出宿所但方系義章惣从
大御前本多左衛門尉 二儀後逸見之令而義也

延享二年夏二条城の御書もあ
寛延元年秋二条城の御書もあ
宝曆元年夏二条城の御書もあ
宝曆二年秋伏見にて二条城もあ
宝曆三年三月先
二条城に御書もあ
二条城に御書もあ
二条城に御書もあ

東海三國年三月五日

寶曆三國年三月五日

義直之族と家の河上出瑞光寺に送る。

寛保二年三月三日

赤坂本多三郎組 三條 跡部新次郎三郎

後長子儀

三編の文三九節 実わけの秘傳
百かたき 赤坂本多入文を
冬も色ハ祖父三因 三編と
編縁系祖子 三國の信ハ赤坂本多
三編系大坂の宿衛ハ三編
夏二系殿の秘傳ハのみ
延享二年六月二日 跡部新次郎

是の二百俵ハ返シ給。

同奉九月五日大内御所村中後有

皆申あきし何故ニと揚。

延享元年七月七日御中納戸

同奉三月十五日布衣志と免さる。

宝曆七年正月廿五日拜表合ふ列す

明和七年正月廿五日致仕

安永六年二月廿日誓と刺りて

徳山

安永八年二月廿日死守六家

寛保二年三月三日

中人細松系清之丞忠光熱尻

大御書本多之庫代組 百俵 松本氏証書

後次帝志帝

旧日原系百俵と揚し替り乃うら

十日と足しうら作と承る。

忠衛系大坂の宿屋より承る

寛延元年二月廿日 死守八家

任 忠衛

寛保二戊午三月三日

中人組以酒井清元を以て養子

大御書本多を以て庫政組 藤 酒井清元を以て

日向屋本多を以て頼之助のうら

百俵と足しうら作と存す

延享二丑年夏三奈城の御書本多あり

寛延元辰年二月廿九日 御書死

延享二年二月十日

寛保二戌年十一月二日

小林新次郎貞親養子

小栗清恒七知年三郎主税

大寺清松年之為古浦恒 小栗 小林新次郎貞純

改田主信

尚純系大坂の寄進之系之筆在八段

宝曆十戌年秋恒候の信清日あり

清初後奉引と勢方先

明和三年秋恒候の勢清にあり

明の三年下りの所が系書のと副と

勢心

安永七年秋恒候の寄進にあり

少翁を以てと替む

天明元丑年夏二条城より多う付

少翁を以てと替む

天明三卯年夏代人より二条城小

多うに明の在年三月病ひ少う

天明八申年八月九日老禱賜養金二入酒井國清等死

寛政二酉年十二月八日致仕

同年四月十九日死七十三歳

延享二丑年二月十二日

寛保三亥年七月十八日家督

小林源左衛門正容熱風

中津信組古倉平之助等死

大津浦松平左衛門信組 三歳後 小林又右衛門正南

改右衛門

正南系右衛門の名を以て承り奉る

云々

宝曆八寅年七月十八日死七十三歳

延享二丑年二月十日

享保十六丑年八月廿五日

大御書松平大亮右衛門 延享二丑年 相江家富之由貞蔵

初は高夜反助貞勝也
少帝後廻行は周防守也

貞蔵系大坂の守也

その後二系城の守也

病ひして江戸子止まり

宝曆二申年二月九日 辞入 角井内亮也

宝曆十巳年二月廿日 大御書上内

徳少守細子入

延享二年二月十日

享保十二年二月十日

加藤清澄

由最清澄天引日為助

大津清松平之丞加藤清澄

改

安南系大坂の系係小系之事三度

宝曆四年二月九日西新清神保田系在馬廻

延享二五年二月三日

寛保三五年八月三日

付三次而盛子吉子

少帝信但長帝河久三帝生死

大寺番松平左衛門補進三依付三多又盛富

延享三五年八月三日移入六門内為御文死

同年年七月晦日致仕

安永四五年八月三日死七十六歳

二月十二日百石不中使

延享二五年三月九日

延享元年十月二日流月

を山に於て景宗書子

山崎法道長谷川公之帝と死

大御所松平公家少輔組 言依 遠山公家又景光

改新八帝

同年夏二条城の宿衛にまゝりし

病ひありて江戸に止り

延享二五年八月廿二日群入川勝在東と死

宝曆丙午七月廿七日死三十一歳

寛延三年二月廿九日

大御酒井之御子組 百俵 生野多吉五郎

同日唐米百俵之給 替の因百俵と

多 給の御子

宝曆元年七月廿日 御子 死 予 之 家

寛延三年十一月廿四日

元文四年七月二日

三橋重隆

三橋重隆の成務天皇
改元

成務天皇の御名

元文四年七月二日

三橋重隆の御名

成務天皇の御名

元文四年七月二日

三橋重隆の御名

成務天皇の御名

この中野に〜の所記賢者〜
獨也〜と賜る

寛政三年七月七日元亨一筆

寛延三年七月十日

寛延三年七月十日

大御酒井左衛門但三依曾雄深八而定記

定記系大坂の影法師、事々々々
宝曆九年三月十日十二日同
宿願子、同如前まこと、善金、好と
徳。

宝曆十三年三月晦日死す、三筆

寛延三年三月十日

延享二年七月十日

左田之税

左田之税

大津酒井之和守組 景儀 左田内高助景信

安信 系大坂の宿直にありし

宝暦四年四月分禱入 左田内高守之丞

宝暦十二年二月六日 田口吉長

大番所の郵敷ありし

天明二年八月五日 教仕岩本と云

安永三年六月五日 死 幸九郎

寛延三年三月十日

寛延元年三月十日

柳宗又七帝改房表屋字

山重信但中多之屋字死

大御書酒井之和守但

景儀

柳宗富之助改字

改格七帝

宝曆元末年夏二条殿の宿也

とあり

宝曆元年六月九日新御書少弐主税但

寛延三年三月廿日

延享三年三月廿日

新永野市自利寺子

小菅庄廻川勝左衛門

志保清浦井土和守組

三倉辰新永野市自利寺

宝曆三年三月廿日新永野市自利寺

寛延三年三月五日

寛延三年三月六日家督

紅林源泰義昌忠成

山重信雄川勝左衛門

大御前酒井大和守但三景 紅林米馬義武

改栲師

宝曆二年八月三日輝入前井内為之死

明和二年三月晦致仕

安永三年七月六日死中宮兼

寛延三年三月五日

寛延三年三月五日

多田三右衛門長忠

書信組川勝なる事

大御書酒井大和守組

三右衛門

多田三右衛門長忠

内事七依

改三八節

昌之丞大坂の御書はまゝ事十夜

宝曆九年三月十五日宛書十とせり

同上の勢のまゝこゝろて其全とせり

御

明和七年三月五日大御書組

安永元年三月七日御書組

事は伊能白根村川勝とせり

ついでに恩賜のり

安永三年夏長門城の築城あり

安永七年秋坂城の築城あり

天明元年五月五日死す

寛延三年三月吉日

寛保二年三月二日家督

佐山左衛門朝之丞

少将佐田内膳

大内書頭并大和守 佐山左衛門朝之丞

朝之丞大内守の命をよめる事
あり

明和二年五月廿三日

朝之丞朝之丞部目

朝之丞朝之丞部目

寛延三年三月吉日

寛延三年七月晦日家督

付三子盛高卷子

小普法但同并内系子配

大伴青酒并大和半但三依伴 織部盛高

改檢

宝曆四年四月十日 坊傳物方

